

専門家3名が徹底解説! 陰謀論はもはや「安全保障上の脅威」である

SNS時代の「陰謀論」 戦略兵器

民主主義をむしばむ認知戦の脅威

長迫智子 小谷 賢 大澤 淳 著

2025年
1月
発行予定

戦争、新型コロナ、そしてアメリカ大統領選挙……今日もネット空間では、様々なテーマの荒唐無稽な陰謀論が飛び交っている。そして2021年のアメリカ議事堂襲撃事件に代表されるように、今や陰謀論は「一部の物好きな人々による趣味」という枠を越え、日本を含む民主主義国家の政治、社会、そして安全保障にまで、大きな影響を及ぼすようになった。

そして中国などの権威主義国家は、陰謀論を「兵器」として活用し、民主主義国家のSNSなどネット空間に送り込み、社会の分断を加速させるための「認知戦」を展開するようになった。

この混迷の時代に、私たちはどう陰謀論に向き合うべきなのか。偽情報や情報戦の専門家3名が、陰謀論に安全保障の視点から切り込み、その全体像に迫る!



©DVIDS

著者略歴

長迫智子 情報処理推進機構(IPA) 研究員。東京大学人文社会科学研究科宗教学・宗敎史学専攻修了。情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科修了。博士(情報学)。笹川平和財団研究員を経て現職。サイバー空間におけるデザインフォーメーションを中心とした情報操作型サイバー攻撃による情報戦や影響工作を中心に研究を行う。

小谷 賢 日本大学危機管理学部教授。専門はインテリジェンス研究、イギリス政治外交史。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。防衛省防衛研究所戦史部教官、英国王立防衛安問題研究所(RUSI)客員研究員、防衛省防衛研究所主任研究官を経て現職。主な著書に「モサド」(新潮社)、「日本インテリジェンス史」(中公新書)など。

大澤 淳 中曽根康弘世界平和研究所主任研究員。慶應義塾大学法学部卒、同大学院修士課程修了。外務省外交政策調査員、米ブルッキングス研究所客員研究員、内閣官房国家安全保障局参事官補佐、同局シニアフェローなどを経て現職。鹿島平和研究所理事を兼務。専門は国際政治学(戦略評価、サイバー安全保障)。

目次

- 第1章 陰謀論に揺れた
アメリカ大統領選挙
- 第2章 認知領域の戦いにおける
陰謀論の脅威
- 第3章 ロシアと中国の認知戦戦略
- 第4章 戦場となる日本の情報空間

★四六判並製・約240頁 【分野】安全保障

担当編集者から一言

陰謀論を社会的に分析した書籍は数多くありますが、本書は少し毛色が違い、安全保障上の視点から陰謀論を分析したものとしましては本邦初となります。トランプの勝敗によらず、陰謀論の影響に注目が集まる現在にぴったりな、時勢を捉えた一冊です。

お申込・お問い合わせ

株式会社 ウェッジ

TEL:03-5280-0528 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング3F

FAX 03-5217-2661

お申込締切: 12/25 (水)

番線印	申込数	販売条件(委託)	SNS時代の「陰謀論」 戦略兵器 民主主義をむしばむ認知戦の脅威 長迫智子 小谷 賢 大澤 淳 著 ISBN 978-4-86310-291-0 C0031 ¥1800+税 四六判並製・約240頁 ウェッジ 予価:1,980円+税(本体1,800円+税)
令和 年 月 日	冊		